

相良農園ほか（北海道厚沢部町）

実証面積：10 ha

実証課題名 カボチャ輸出産地における国産散布用ドローンによる連携防除の実証

構成員 農研機構北海道農業研究センター、相良農園、西口農園、あっさび農匠、農研機構植物防疫研究部門、農研機構農業環境研究部門、北海道（檜山農業改良普及センター）、（一財）北海道食品開発流通地興、厚沢部町スマートアグリ推進協議会



背景・課題 カボチャの輸出産地である厚沢部町では、出荷量を低下させる貯蔵中の腐敗果発生抑制が急務である。蔓が伸びるため地上からの薬剤散布に手間がかかるカボチャほ場において、ドローンを利用した薬剤散布技術が必要とされている。



1 ha を超える厚沢部町の畑ほ場

本実証プロジェクトにかける思い

これまで、収量を低下させるうどんこ病や果実腐敗の原因となるつる枯病の防除のため、畝間の蔓を動かして作業道を造成してから、ブームスプレーヤーで薬剤散布を行う必要があった。生産者集団が複数の散布用ドローンを管理、運用することで、適期防除を達成し、輸出産地でのカボチャ出荷量を増加させる。

- 目標**
- 慣行防除と比べ作業時間 20% 減、農薬使用量 10% 減、収量 5% 増、貯蔵中の腐敗果発生率 5% 減
 - 輸出用カボチャ出荷量 10% 増、中核農家のカボチャ所得 5% 増

実証する技術体系の概要

要素技術 ①うどんこ病AI診断、②うどんこ病、つる枯病ドローン防除、③営農管理システム

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「見られる」ポイント				①	②		③					

①うどんこ病AI診断

②うどんこ病、つる枯病ドローン防除

生産者集団による複数台の国産散布用ドローンを用いた適期防除

<https://agrijournal.jp/goods/ac101/>

問い合わせ先

- ▶ **実証代表** 農研機構北海道農業研究センター寒地野菜水田作研究領域 中村卓司 (e-mail : smartagri-assabu@ml.affrc.go.jp)
- ▶ **視察等の受入について** 同上